

なかつか 亮



8校が2校の小中一貫校へ学校統廃合

6つ学校が地域から消える

—共産党、反対討論—

約2週間の日程で行われた品川区議会第4回定例会は12月7日に閉会。最終本会議で、共産党はコスト削減を理由に、8つの学校を2つの小中一貫校へ学校統廃合とする計画への反対討論を行いました。この統廃合は「学校統廃合はしない」との区の方針変更後、初めての具体化です。本会議での討論を紹介します。

ご存知ですか

「統廃合計画」

学校選択制が始まった7年前、品川区は保護者や町会関係者から「学校選択の結果、選ばれなかった学校や生徒が減った学校は統廃合になるのでは」との不安の声に対し、「学校統廃合は考えていません」と繰り返し説明。区議会でも「たとえ、1人になっても学校統廃合はやらない」と繰り返し返し答弁してきました。

しかし、濱野区長に



なり、この方針が一転。今年2月、教育委員会は文部科学省宛てに「計画書」を送り、その目的に「統廃合の実施に伴う諸課題の検討」と明記。計画書には平成21年度に「統廃合計画の年次計画に基づく実施」と記しました。

初めての具体化

12月7日の最終本会議で、「計画書」の先行実施校となる、8つの小学校を2つの小中一貫校へと統廃合する計画が議案採決に。共産党は反対討論を行いました。裏面をご覧ください。議案に対する各会派の態度は次の通りです。

- | |
|---------------------------|
| 賛成 |
| 自民、公明、民主、
無所属クラブ、無所属の会 |
| 反対 |
| 共産、生ネット |



共産党反対討論(一部要約)

以下、反対討論を紹介します。

共産党を代表し反対討論を行います。この条例は平成20年度から八潮北小・八潮小・八潮南小を1つの小学校に。八潮中、八潮南中を1つの中学校に。さらに、平塚中と荏原二中を1つの中学校に統廃合するもの。その上で、平成21年度からは八潮地区小中一貫校に、平成22年度からは荏原西地区小中一貫校に平塚小を加えスタート。つまり、8つの学校が2つになり、6つもの学校が地域から消えます。

区は「地域から要望がない限り学校統廃合はしない」と説明していたが、濱野区長はコスト削減を理由に小規模校は統廃合へ方針転換。本条例はこの方針の具体化です。反対理由を三点述べます。

1 点目は統廃合の理由です。企画部長は教育委員会で「小規模学校の統合・再編によりコスト削減が求められている」と発言

し、コスト論で統廃合を合理化しました。区は積立基金600億円を「健全財政」と自慢するが、未来を担う子どもたちを育てる教育予算を削って「健全財政」とは話があべこべです。

2 点目は「小規模校は問題」とのレッテル貼りです。区教委は学校選択制を導入の時「小規模校は一人になっても支援する」と説明。ところが、ここにきて「小規模校は教育目標を達成しづらい」と発言。2月の区資料は「小規模化により、児童生徒の適切な競い合いや、切磋琢磨、多様な個性との触れあいという環境が乏しく、成長への影響が懸念される」と、手のひらを返したように「小規模校は問題」と言い始めました。

しかし、小規模校といわれる学校では、そのよさを生かし一人ひとりに目が行き届く教育を展開、一生懸命子どもを豊かな成長を支えるための努力を重ねています。一方的なレッテルは事実をゆがめ、親の願いも学校

現場の努力も踏みにじるものです。

3 点目は、トップダウンの進め方の問題です。「統廃合という方針先にありき」のトップダウンは間違い。とりわけ、本来学校教育の主役として尊重されなければならぬ子ども不在とは、猛省すべきです。現在も、学事制度審議会は非公開。子どもと地域の将来に大きな禍根を残します。子ども・学校・PTA、そして地域全体で長時間議論する姿勢に転換すべきです。

今、いじめや不登校、学習意欲の低下など、子どもをめぐる解決が待たれる問題は少なくありません。共産党は学校統廃合で学校の数を減らすのではなく、今こそ30人学級による学び合いの教育を実施し、教師も子どもも一人ひとり主役になれる教育環境こそ急がれると思います。以上で終わります。

いかがですか。皆さんのご意見お聞かせ下さい。なかつか亮

次回の『気軽な町の無料法律相談会』のお知らせ

年内の無料法律相談会は終了しましたが、何か急ぎの事がありましたら、ご遠慮なくお電話下さい。次回の日程は決まり次第ご連絡します。

連絡先 昼：区議控室 5 7 4 2 - 6 8 1 8 夜：事務所 3 7 7 3 - 3 2 3 1